

母子で漢方風呂を続け乳児の皮膚状態が落ち着いた小児アトピーの経過 (0 歳女児)

症例 ID：001-30-IMar | 記録日：2000 年 7 月 5 日

1. 診断・治療前経過

生後 1 か月半頃から首、頬、あごのあたりがただれ始め、2 か月を過ぎる頃には口の周りから耳まで膿む状態になりました。小児科でアトピーとされ、アズレンを使用しましたが良くなりませんでした。

母親にも手湿疹があり、母子で治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児本人はステロイドや抗アレルギー薬を使用していません。母親には来院前のステロイド使用歴があります。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳児本人は使用なし。
中止時期	ステロイドを使用せず、治療を開始しました。
来院前／後	来院前の乳児本人のステロイド使用はありません。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 1 か月半頃	来院前	首、頬、あごのあたりがただれ始めました。
生後 2 か月過ぎ	来院前ピーク	口の周りから耳に至るまで膿む状態になりました。
1999 年 4 月 28 日	治療開始	生後 3 か月頃に松本医院を受診し、漢方風呂と消毒などを始めました。
治療 3 週間後	初期反応	顔と上半身の症状が強くなりました。
治療 1 か月後	回復傾向	顔はかなりきれいになってきましたが、頬から汁が出るなど、出たり治ったりを繰り返しました。
2～4 か月後	症状の波	ピークは越えたものの、どこかに症状がある状態が続きました。
8 か月後	経過後半	漢方の飲み薬も始め、治りが早くなったように感じられました。
2000 年 4 月 28 日	通院終了	1 年かかって治療を終え、ひどかった時期が嘘のような皮膚状態になりました。

4. ピーク時期

ピークは、生後 2 か月過ぎに口の周りから耳まで膿み、治療開始 3 週間後に顔と上半身の症状が強くなった時期です。

5. 困りごと

- 乳児を 1 日 2 回、できるだけ長く漢方風呂に入れる必要がありました。
- 消毒や入浴後の処置のたびに乳児が大泣きし、母親の手湿疹も重なって負担が大きくなりました。
- 家族の協力を得ながら治療を続ける必要がありました。

6. 経過のまとめ

生後1か月半頃から首、頬、あごに症状が出始め、生後2か月過ぎには口の周りから耳まで膿む状態になりました。

生後3か月頃に治療を開始し、出たり治ったりする波を繰り返しました。

1年後の2000年4月28日に治療を終え、ひどかった時期が嘘のように、つるつるの皮膚状態になりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。